

～ 震災ボランティアで得た経験を継続的な震災復興支援に ～

SEIRYO 復興支援ボランティア活動フォローアップミーティング I

(東日本大震災復興支援ボランティア活動中間報告会)

学生による提言

この度の震災を機に見えてきた社会のほころびや、本当に大切なことについて、さまざまな場所での対話を生み出すこと、被災地のことを忘れず復興への思いを持ち続けること、そしてどのような未来をつくりたいのかを問い続けること、これらは今後も求められることです。新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部は陸前高田市復興支援ボランティアをはじめ、個人レベルでもさまざまな活動を行ってきました。それぞれの学びや気づきをこれで終わらせるのではなく、継続的な震災復興支援に向けて、本学としての今後の取り組みの可能性についてここに提言をします。

提言① 「ネットワーク作り～大学を核とした地域の絆づくり～」

- 県内他大学・県外他大学との連携
- 地域との連携
- 専門家との連携

今回の震災で自然の脅威を実感し、人間は自然の力の前では非常に微力だということを実感いたしました。そんな状況の中、人々は協力しながら復興に取り組んでおり、「繋がり」が見直されることとなりました。一人では微力かもしれませんが、力を合わせる大切さを再認した今だからこそ、大学を中心としたネットワーク作りを推進していきます。

提言② 「継続的な被災地支援と地域力向上への取り組み」

- 多様化するニーズ
- それに対応する応用力
- これから求められる防災教育

復興支援は、瓦礫が片付いたから、あるいは仮設住宅に入居したから支援は終わりではありません。住民の生活が変わればニーズも多様化してきます。今後継続的な被災地支援を行うに当たり、我々自身の資質や能力の向上が求められます。そして、長い目で見た時、我々が被災する可能性も否定できません。ネットワーク形成を前提に、大学だけではなく、地域ぐるみの防災教育を通じて、地域力の向上を目指します。

提言③ 「次段階への発展を目指したアクションプランの作成」

- 「フォローアップ・ミーティングII」に向けて（2月下旬～3月に開催）
- 内部の連携強化
- 全学的な取り組みへ

今回のボランティアを本学一丸となって取り組んだことで、青陵大学内の「繋がり」や「凝集性」が見直されました。本学の復興支援をレベルアップさせ、短大、大学、大学院の学生や教員、そして職員が一つになった全学的な活動をアクションプランとして作成していきます。

平成23年12月11日

新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部

被災地支援ボランティア活動参加学生有志ワーキンググループ一同

今後、本提言を叩き台として協議を重ね新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部としての「提言」をまとめていきたいと考えております。皆様のご意見などをお待ちしております。